

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 9 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 9 号

令和 8 年 9 月 2 日
徳 島 県

I. 普通作物

普通期水稻

穂いもち(令和 8 年 7 月 7 日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月 25 日～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 9.5%、発病穂率が 0.0%と、平年(17.5%、0.2%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方气象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂後、曇雨天が続いた場合は、穂揃期に防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月 25 日～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 28.6%、発病度が 1.4 と、平年(57.2%、3.7)に比べてやや低い。

(2) 高松地方气象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第 3 葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.8%、株当たり寄生虫数が0.1頭)。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場での発生状況を観察し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う。
- (2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、降雨の合間に薬剤防除を行う。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月25日～31日の本田における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、21地点のうち14地点で生息を確認した。捕獲地点率が66.7%と、平年(47.0%)に比べてやや高いが、地点当たりの捕獲虫数が1.5頭と、平年(1.7頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 薬剤散布は、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

II. 果樹

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 7月24日～31日に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9～11月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が48.3%、寄生果率が2.4%)。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

1 葉あたり寄生虫数が 0.0 頭)。

(2) 高松地方気象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月 25 日～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 33.3%と、平年(46.6%)に比べてやや低いが、寄生葉率は 2.9%と、平年(4.2%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月 25 日～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 33.3%、寄生葉率が 1.2%と、平年(31.5%、0.9%)並の発生である。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は、被害果実の発生圃場率が 8.8%、被害果率が 0.2%)。

(2) 高松地方気象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

秋冬ネギ

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月 25 日～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 44.4%、被害度は 1.7 と、平年(52.2%、2.1)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が 8 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ(令和 8 年 6 月 5 日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生圃場率は55.6%と、平年(60.0%)並の発生であるが、寄生株率は9.6%と、平年(5.1%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。

(2) 幼虫の齢期が進み、葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

(3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による交信攪乱が効果的であるので、適切に使用する。

(4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が44.4%、被害度が2.5%)。

(2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ(育苗期)

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が18.2%と、平年(21.7%)並の発生であるが、発病株率は0.3%と、平年(1.2%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で防除する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月25日～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が27.3%、寄生株率が4.0%と、平年(40.3%、5.8%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ (令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年に比べてやや低く推移している(図1)。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

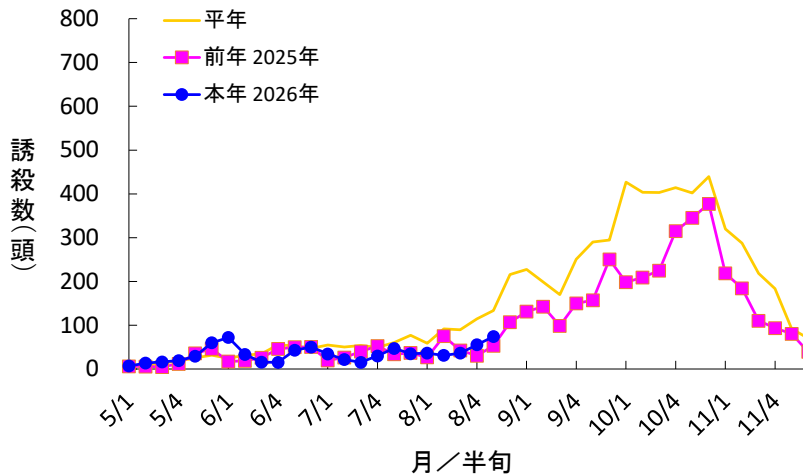


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市、石井町、阿波市、吉野川市、東みよし町、三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ (令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並に推移している(図2)。
- (2) 8月25日～31日の秋冬ネギにおける巡回調査では、発生圃場率は55.6%と、平年(60.0%)並の発生であるが、寄生株率は9.6%と、平年(5.1%)に比べてやや高い。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

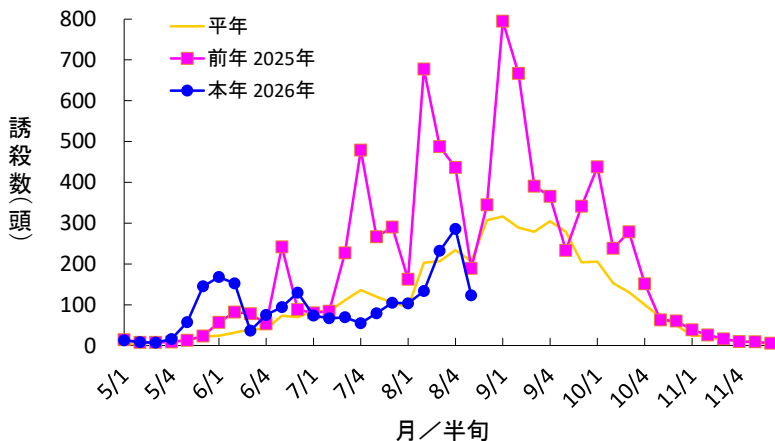


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市、石井町、阿波市、吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年に比べてやや低く推移している(図3)。
- (2) 8月25日～31日の夏秋ナスにおける巡回調査では、産下卵を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が22.1%、100葉当たりの産下卵率が0.3%)。なお、幼虫による被害果実の発生圃場率は22.2%と、平年(8.7%)に比べて高いが、被害果率は0.2%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

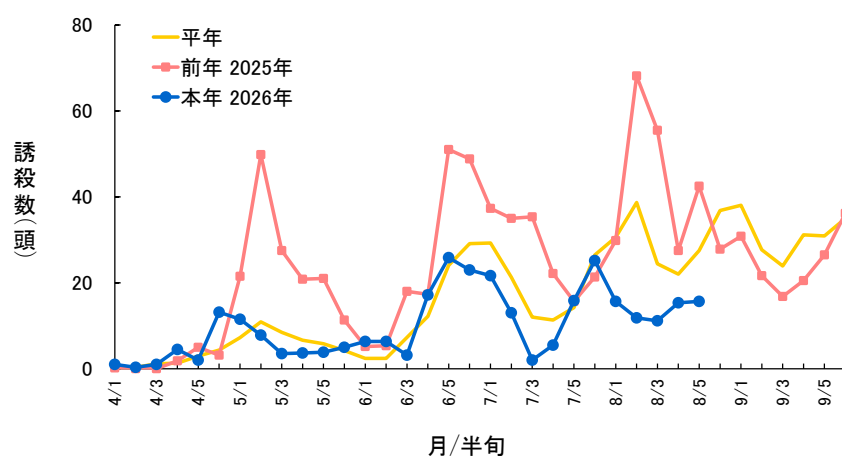


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 3) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。